

は使わない
六、病害虫等の防除駆除は出来るだけ肉眼透視の手動除去で、農薬散布はしない

以上連記した事柄を日曜日の安息日を除いて殆ど毎日、三時間を限度に行っています。そして栽培時期に合わせて、次のような管理・作業の手順に従って栽培から収穫までを行っています。まず土地ごしらえから始めます。病害虫発生の要因を取り除くために、前野菜の残りくずを除去か焼却し、硝石灰の撒布及びシヤベルで深く耕し、下層土と上層土を反転させる粗起し作業を実施します。また自家用の苗栽培のために、播種用の苗床及びポット用の土壌つくりを準備します。そして野菜の種類に応じて畝立て、播種、生育苗の植付けを順次実施し、栽培野菜の高品質、多収穫のために、生育状況に合わせたの土寄せ、覆い土、追肥(肥料種、施肥量、施肥時期)を適時にします。また、結球、花蕾をよくするために株揃え、株間、株張等の間引きをします。萎黄病、軟腐病、根こぶ病、菌核病、苗立枯病を防除するため、病害虫の目視

手動による除去、また雑草を根気よく除去いたします。いよいよ野菜の収穫ですが、収穫適期、果実の生育状況を注意深く目視し、労力に応じて収穫をしていくという、まさに肉体的な苦労話です。

いままで、菜園作りの苦労話ばかりを文章に纏めてきましたが、野菜類には、ガン予防、肝臓病予防、動脈硬化予防、胃腸病予防、血栓予防、外三十五種類余の病状に予防効能が期待されていることも付け加えておきます。また緑黄色野菜のカロチンやビタミン、淡色野菜のミネラルや食物繊維は、各種の免疫力増強に有効とされ、あらためて、野菜の重要さを認識し、感謝と期待をしております。

最後に、畑作業のあれこれを、自分だけが主体となつてやってきたように書いてきましたが、播種、草取り、収穫作業、野菜の食加工には、「かみさん」が手足や腰の痛みを厭わず、本人曰く「献身的に終始、援助した」という内助の功が大である事を付記いたします。最後まで、拙い雑粗文を笑読戴き、有難うございました。

「ジュール・シュヴァリエ神父の列福を求める祈り」

聖心布教会は1854年12月8日、無原罪の聖母の祝日に、フランスのイソダンで創立されました。2年前の2004年に創立150年のお祝いをしたことを覚えておられる方も多いと思います。創立者はジュール・シュヴァリエ神父で、1907年に亡くなられましたので、来年は丁度没後100年の記念すべき年となります。今、聖心布教会と聖心の聖母会の神父様やシスター方は、創立者の列福のための祈りをしておられます。シスター林、シスター高良、そしてプリヨ神父様に英文の祈りを訳していただきましたので、みこころ会でもこの祈りを始めました。ご賛同いただけましたら、皆様にも列福の祈りをお願いしたいと思います。

私たちの父である神よ、あなたは私たちを愛するあまり、全世界の救いのために、あなたの子イエスをお与えになりました。

私たちは、時代の病を癒す、すべを備えるために、あなたがジュール・シュヴァリエ神父を、教会にお与えになったことに、感謝を捧げます。

神父は、母マリアと共に、十字架の下で、刺し貫かれた者を黙想し、イエスの聖心、即ち憐れみ深い、愛の聖心の熱心な使徒となり、聖心が世界の至る所で愛されることを強く望まれました。

私たちの時代の悪、即ち暴力、不正義、他人の排斥という行いを癒すために、主よ、どうか神父が、現代の教会に、イエスへの愛と、全人類の救いへの熱意の模範として、捧げられますように。

あなたの御国の支配が、至る所で実現しますように あなたの正義、愛、平和、そしてあなたの子イエスの聖心が、新しい世界の心となりますように。

ジュール・シュヴァリエ神父が、私たちのために取次ぎ者となり、この世を旅する私たちの同伴者となりますように、アーメン。